NPO 法人　ゆい　-第４・５号-

～子どもの育ちを見つめよう　未来を語ろう　手をつなごう～

―法人設立３年目を迎えるにあたって―

ＮＰＯ法人ゆいは、１０月５日で満２歳になります。

福岡市補助金事業「子どもの食と居場所づくり支援」を始めた３年前から振り返ってみると、子どもの発達過程と同様に多くの方の助けや支持を受けながら、課題を皆で乗り越え、環境に合わせて試行錯誤しながら少しずつ成長してきたと実感しております。今できること、やりたいこと、するべきことを考えつつ、いろいろな方や地域とつながり、そして楽しみながら活動をさらに充実したものにしていきたいと思っています。

支援・応援して下さる会員・ボランティアの方々、そして様々な寄付をしてくださる皆様に感謝するとともに、さらに多くの方のご賛同をいただきたく会報誌「ＮＰＯ法人ゆい第 ４・５ 号」をお届けします！

理事長　高木美穂子

目次

１．「わいわいこどもキッチンぷらす」と「夕やけひろば」
（姪北公民館）が２年経過しました　……p.2
２．自然の中で思いっきり遊ぼう！！～第２回　親子で沢登り体験～　……p.3
３．講演会　～子どもの発達と、子どもを取り巻く環境を考える～
第１回「発達障がいの理解と支援」　……p.4～ p.5
４．ゆいコラム　（その１）　～私の仕事と「ゆい」～　……　p.6
５．「だいこんの花ばたけカフェ」（小田部）の取り組み　……　p.7
６．子どもの食と居場所づくりの今
―会員募集のお願い―　……　p.8

１.「わいわいこどもキッチンぷらす」と「夕やけひろば」（姪北公民館）が２年経過しました

「わいわいこどもキッチンぷらす」は３年目に入りました。子どもたちの料理の下ごしらえのレベルが、とてもあがりました。「切る」から「食べやすく切りそろえる」ようになりました。三色そうめんの具がバットに色よく並べられると、錦糸卵の黄色、きゅうりの緑、鶏肉を細く裂いた身を、子どもたちが思い思いに盛り付け、各自満面の笑み。「なるほど！」と、より真剣な表情になるパパや、ボランティアの成人男性の姿もあり。一番人気はパティシエ見習いの若いお姉さん。この日は見た目にもおいしそうな、たっぷり盛りの三色そうめんをみんな完食しました。

その後、子育てマイスター「あゆみ」からいつもボランティアに来てくださっているお２人の指導で、七夕飾りを制作。青々とした大きな笹には願い事を書いた短冊、折紙や切り紙で作った着物、提灯、天の川などが揺れて、お腹も心も満たされました。（７月１日）

「夕やけひろば」も一周年を迎えました。月１回金曜日の 16：30 から 18：30 です。このところ、幼児連れのママたちの来場を多く見るようになりました。あるお母さんが「うちの子がこんなに笑って食べているのを初めて見た！」と話されました。忙しい母は効率よく沢山たべてくれることを願うあまり、ついつい要求優先で、思いを受け止める事や、やさしい眼差しがどこかに隠れてしまうことがよくあります。ここに来ると出来たてのご飯が用意されているし、同じ仲間はいるし、笑顔で向かい合って食べられます。

「ゆい」が作りたい「子どもたちに居心地のよい場所」の基礎工事は、おかげさまで順調です。

安武智里（理事）

２．自然の中で思いっきり遊ぼう！！～第２回　親子で沢登り体験～

平成 30 年８月 18 日（土）９：30～14：30

(活動場所：福岡市民の森　油山観光センター/企画担当：常高佑騎・高倉華代)

現在、身近で自然と触れる環境が少なくなっており、子どもの成長には自然との関わりは大切であると考えます。人間だけでなく他の生物とのつながり、自然の中で育まれる独創性、親も自然の中で遊ぶ楽しさを知って欲しいという思いからこの企画を立ち上げました。

当日は台風の影響が心配されましたが、本番は快晴。絶好の沢登り日和となりました。
沢登りの準備を行い、ガイドさんから登り方の指導や注意事項案内後、沢へ移動。最初は若干緊張ぎみでしたが、すぐに慣れ、全身で水を浴びながら皆楽しそうに登って行きました。途中、カニやカエル・魚やヘビといった動物とも出会い、子どもたちも大喜びでした。

沢登りが終わった後は、昼食をとり自由行動。
自由行動の時は、クラフトづくりを楽しみました。
子どもたちは夢中で作り、その姿を親御さんが見つめながら、時折手伝う様子も見られました。

今回参加の動機として、「子どもたちに自然体験させたい」という思いを感じ、結果、「初めての体験で楽しかった」「貴重な時間が過ごせた」という感想を頂きました。また「次回も参加したい」という嬉しい意見も頂き、今後の活動の励みにもなりました。
出てきた反省点を活かし、これからも自然体験活動を通じて自然の大切さを皆様と共有していきたいと思います。

最後に、参加者の皆様、企画に協力して頂いたガイドさんやスタッフに感謝です。
本当にありがとうございました。

常高佑騎（正会員）

3．講演会～子どもの発達と、子どもを取り巻く環境を考える～
第１回「発達障がいの理解と支援」

平成 30 年６月 23 日（土）10：30～14：30
（西南学院大学百年館）

講師　井上哲雄氏（西南学院大学名誉教授）
40 年以上にわたり発達障害の子どもや家族を支援するボランティアサークルに関わり、大学では「心理学」や「発達心理学」の教鞭をとり、舞鶴幼稚園長として発達障害の子どもに関わってこられた、九州での自閉症研究の第一人者。

自閉症スペクトル障害は、過去には１万人に３、４人が発症するとされていましたが、現在は 1.5%位とされ、自閉症の障害傾向をもった人を含めると 10%位になるとみられます。また、注意欠陥多動性障害（ADHD）は 10～15%、学童期の子どもでは 3～5%はいるとされています。特異的学習障害も発達障害の対象ですが、今回は自閉症スペクトラム障害と注意欠陥多動性障害(ADHD)に限って話をします。

発達障害では親の育て方が問題にされることがありますが、そうではなく、脳の構造や神経伝達物質など生物学・遺伝的要因によって脳の働きが定形発達とは異なるために起こる脳の障害です。しかし、素因をもっていれば問題行動が必ず起こるというものでもなく、**不適切な対応で二次障害が顕れ**、対人的な不適応が高じてしまいます。こうすれば必ずうまくゆくという方法はないのですが、子どもの特徴を捉えて環境を整え、長所を伸ばして社会参加や自立を促すなら、ちょっと変わった人くらいで社会適応できます。しかし、社会適応できても発達障害のもつ行動特性は消えるものではありません。

自閉症スペクトラム障害は、社会的、情緒的相互性の障害であり、他人との関わりが弱く相手の言動の背後にある心の動きを読み取れない、いわゆる「心の理論」の未発達が特徴です。**乳幼児期**には、指さし行動などの共同注視が育ちにくい、ごっこ遊びや集団遊びができず一人遊びが多いので気付かれます。**学童期**には、特定の環境や行動へのこだわりが強く、周囲への配慮ができずマイペースで仲間から孤立しがちです。**思春期**には羞恥心、公私の区別、性的行動の調節力などが弱く、**成人期**には、状況に応じた言動が不得意で社会への不適応が起こります。一方、常識にとらわれず興味のあることへ没頭する能力、匂いや音、光等への感覚過敏があることは芸術家や研究者になり発揮されることもあります。視覚優位の特性をもつ自閉症の子どもには、この能力を利用して養育するＴＥＡＣＣＨプログラム（生活環境やスケジュールをわかりやすく視覚的に絵で明示する、ストレスにつぶされそうな時に逃げ場をカード絵で示すなどの方法）が推進されてきました。仕事のプロセスを判り易く工夫したワークシステム、学びや労働環境の工夫も必要で、ある程度知的能力のある子どもはソーシャルストーリーなどケースを読むことで他者の心を知るなど、自閉的特徴を踏まえて社会適応を促す養育が必要です。

注意欠陥多動性障害（ADHD）は注意の持続障害（不注意）、多動性と衝動性が特徴であり、易興奮性もある ADHD の子どもは、乳幼児期から過剰な動きが見られ、学童期にはクラスでのトラブルメーカになりがちです。思春期になると多動性は抑制されますが、注意集中力の困難が続き、学業不振などによって自尊心が傷つき、反抗的、反社会的行動をとりやすくなります。成人後はケアレスミスなどの失敗、衝動買い・ローン破産、交通事故も起こしやすいのです。障害の特性を理解し、環境を調整しながら社会適応の改善を図り、子どもの長所や得意な所を評価し成功体験を増やし褒めることで、自信や自尊心を得られるよう工夫します。また、ソーシャルスキルのルールを守ることを知り、自分の行動コントロールができる能力を培い、できないことは無理せずに人に頼んだり相談したりできる地域社会での生活自立を計れるよう支援することです。

講義中、先生ご自身や定形発達をしたと思っている私たちの中にある自閉的要素をユーモラスに指摘されて、なごやかで笑いの多い講演会となりました。　　山崎喜代子（理事）

後援：福岡市・西南ゆりの会

講演会～子どもの発達と、子どもを取り巻く環境を考える～

第２回「子どもの発達とメディアの関係性について」

講師に筑紫女学園大学准教授、NPO 子どもとメディア専務理事の、原陽一郎氏をお迎えして、下記のように第２回講演会を行います。お誘いあわせの上どうぞお出かけください。

【日時】　平成 30 年　10 月 21 日（日）10：30 ～12：00　講演会
13：00 ～14：30　交流会・質疑応答

【場所】　西南学院大学コミュニティセンター　２階会議室

【参加費】　一般　1000 円　※ＮＰＯ法人ゆいの賛助会員　500 円
学生　500 円

【定員】　30 名（定員になり次第締め切ります）

【申込み・問い合わせ】080－3949－5229(たかき) E-mail:pizz.piano@jcom.home.ne.jp

【後援】　福岡市　・　西南ゆりの会

４．ゆいコラム　（その１）

ゆいのメンバーは、教育・福祉関係者や大学院生など、様々な現場経験者で構成されています。そのゆいが何を目指しているのか、メンバーのコラムを通して感じていただけたらと思い、新しいコーナーを作りました。初回は、元家庭裁判所調査官で、ゆいの理事である江口が担当します。

～私の仕事と「ゆい」～

元家庭裁判所調査官　江口朋子（理事）

４０年以上，少年非行や家族間のもめごとに対処する仕事についていました。正職員としての仕事は終わりましたが，現在も，施設収容されている女の子たちと定期的に面接したり，面会交流（両親が別居や離婚後，一緒に暮らしていない方の親と子どもが会うことを，こう言います）のサポートをしたり，といったボランティアを続けています。

こんな仕事やボランティアでは，幸福感に満ちた子どもと出会うことはほとんどありません。ことに，施設収容されている女の子たちが語ってくれる生い立ちは，すさまじい虐待，性被害，薬物などのエピソードだらけで，かける言葉が見つからず，とにかく話を聞いて「よく今まで死なずにきたね」と言うことしかできないこともしばしば。満身創痍の人にどうにか絆創膏一枚を貼ってあげるようなものだなあ，とため息が出ます。こうした子どもたちの親は，自身も同じように苦しい子ども時代を生きた人が大半です。

離婚紛争中の両親のもとでの子どもたちや，面会交流にやってくる子どもたちからは，こんな幼い子がこんなにも両親に気を使うものか，こんなにもおとなびた態度を見せるのか，と驚かされることが頻繁です。オトナになるのを急がされすぎているようにも思えて，これまたため息が出ることがあります。

子どもなりの悩みや辛さは，多かれ少なかれどの子も抱えているでしょう。でもどんな子どもたちにも，しんどいこともあったけど，たっぷりと幸福感に満ちた時間はあったなあ，と思える記憶を重ねてもらいたい。オトナになるのは，ゆっくりでいい。

わが子が保育園時代，保育園で目にしていた子どもたちの何と満ち足りた表情だったことか。「保育園時代は至福の時だった」と言うわが子は，その後さんざん親の手を焼かせましたが，保育園時代の笑顔を思い出すことが私の支えでした。今私が関わっている子どもたちの親も，子育ての支えになるような子どもの笑顔をたくさん見ることができていれば，生き方が違ったかも知れません。
わが子の出身保育園の元園長から「ゆい」に誘われ，保育園時代がよみがえり，「ゆい」の活動で子どもたちや親たちのあんな安心しきった笑顔に会えたら，と理事の末端に名を連ねています。

５.「だいこんの花ばたけカフェ」（小田部）の取り組み

これまで行ってきた福岡市補助金事業「わいわいこどもキッチンぷらす」、「夕やけひろば」に加え、６月から早良区小田部においても、「子どもの食と居場所づくり」の活動を始めました。
小田部の自治会長とのご縁で、会長が地域のために作られた場所（コーポ松永/通称：ホワイトハウス）をお借りして、「だいこんの花ばたけカフェ」という名称で行っており、今は子どもたちやお母さん、そして地域の方や行政・関係機関の方たちに「おはなし会」や食事会に参加していただきながら、何か地域のニーズや課題に貢献できないかとみんなで試行錯誤しているところです。

７月 21 日に行われた小田部地区の夏祭りでは、私たちも地域の一員として、くじやヨーヨー釣りの出店をさせていただきました。この活動を通して多くの子どもや親と話ができ、「だいこんの花ばたけカフェ」のお披露目となり、夏休み中活動には、その子どもや親たちが参加してくれましたし、その方たちのつながりで少しずつ地域に根づいているように感じます。まだ始まったばかりですが、これから民生委員さんなど地域の人に直接お話を伺いながら、地域の方々とともに、皆さんに必要とされるよりよい「居場所」づくりを行っていきたいと考えています。

６．子どもの食と居場所づくりの今

「子ども食堂」という名前がひとり歩きをする中、５月には修猷館高校新聞部の皆さんが取材に、そして、８月には福岡教育大学の学生さんたちがボランティア参加をしてくださり、それぞれ学生さんの視点でいろいろご意見やご感想をいただきました。その記事やアンケートの中には、世代が違っても同じ思いや考えがあるとともに、私たち自身が改めて気づかされたり教えられたりすることがたくさん書かれており、とても刺激になりました。

また９月には「第４８回九州保育団体合同研究集会　長崎集会」において、賛助会員の前田志津子（活水女子大学教授）先生の計らいで、市民講座をさせていただく機会に恵まれ、約１８０名ほどの参加者の前で、NPO 法人ゆいのこれまでの活動について聞いていただくことができました。そしてこの講演を機に、また若いお母さんたちと新たなつながりも生まれ、少しずつ成長しているところです。

会員募集のお願い

ゆいの活動は、子育てを大切に思う人々のご支援の力がエネルギーとなっています。活発な運営・発信をしていくために、ゆいの活動を一緒に盛り上げてくださる会員・団体を募っております。
ご入会の皆様には、講演会・イベントのご案内や報告などを、会報(年３回)にてお知らせします。

年会費は１口、**正会員（個人 5,000 円、団体 10,000 円）、賛助会員（個人 2,000 円、団体 5,000 円）**です。運営スタッフやボランティア希望者も大歓迎です！ご参加お待ちしております。

【4 月以降、正会員・賛助会員になられた方】
〇西田知佳子　〇副島恭子　〇松下恭子　〇明神倫子　〇真子悦子　〇常高佑騎
〇西村恵子　〇山下徹　〇前田志津子　〇有田一雄　〇猪口志舞　〇長濱遼　〇打越時子
〇佐々木恵子　〇松永マツエ
〇ＮＰＯ法人わかばスポーツ＆カルチャークラブ　（敬称略）

※この他にも、姪友会さんからお米６０㎏（２回目）、また果物などの缶詰めやホットケーキなどの食材をくださる〇さんやフードバンク福岡さん、そしていつも「ゆい」の活動を手助けしてくださる子育てマイスター「あゆみ」の皆さん、福岡市食生活改善推進員の内田さん、高木さんなどのボランティアの皆様。本当に多くの方の理解や力をいただきながら、ここまでやってこられたことを、心から感謝しております。
「いつもありがとうございます！！そして、これからもよろしくお願いいたします。」

《編集後記》ゆいの活動は３年目に入り、参加してくれる子どもたちの数も少しずつ増えてきて、心を開いてくれることに喜びを感じます。ボランティアさんの笑顔も私たちの力となります。いろんな方に地域の居場所として使っていただくことを目標に、次のステップを作っていきます。今後ともよろしくお願いいたします。　　―次回は２月頃発刊の予定です。どうぞお楽しみに―

編集責任者　飯地眞理子（理事）

ＮＰＯ法人ゆい　―第４・５号―
連絡先　事務所：福岡市西区生松台２丁目 30 番１号
TEL：０８０－３９４９－５２２９　（たかき）